

情報リトラーシー教育の展開： 学習の場を作る相乗効果の探求

吉田素子

マニトバ大学（カナダ）

エリザベスデフォー図書館



マニトバ大学

マニトバ州、カナダ

- 医学部のある総合大学
- 学生数： 24,981
- 教員人数： 1,142
- 司書人数： 55



マニトバ大学図書館の構造

- 2 キャンパス
- 9つのユニット図書館と9つのサテライト図書館
- 図書目録共用
- 中央集権思考
 - 館長さん一人
 - 副館長さん二人
- 蔵書/図書資料の管理
 - 各学部、学科のプログラム及びコース変更の際の図書館資料の査定レポート
 - 本、ジャーナル、データベースの予算

情報リトラシーに関する 活動の経歴

- 情報リトラシーコーディネータ就任（2001年9月）
- 情報リトラシー教育及び指導委員会発足（2002）
- 2004年春
 図書館サービスコーディネイティング委員会、
 情報リトラシー戦略計画案承認

利用者教育

- 司書の仕事の分担＝自分の担当の分野
- リファレンスサービスの延長上と云う考え
- 伝統的に確立された役目

情報リトラーシーコーディネーター 就任以前の図書館指導活動状況

- 各学期初めのオリエンテーション
- OPAC及びデータベースの検索ワークショップ
- 配布物の制作
- 各学科授業にあった図書館指導
 - － 教員からの要請
 - － 各分野担当の司書の責任
 - － 研究課題／宿題にあわせる

理論と実践との隔たり： 情報リトラシー教育方法論の矛盾

- 情報リトラシー教育に関する司書達の認識
- 情報リトラシー規準（ACRL）
- どのカリキュラム重視？
 - 情報リトラシー教育のカリキュラム重視
 - 学科、学部カリキュラム重視
 - 情報リトラシー教育要素を編みこむ

情報リトラーシー教育が 謳われる背景

- 大学全体の役目の模索
- 大学教育の見直し，特に『教え』中心の授業から生徒の『習得』中心へ

2004年11月までの成果

1. 大量生産型
2. 学科、学部カリキュラム優先型

大量生産型

University 1 (19クラス)

- “Introduction to University”
- キャンパス内の学生支援部門 (Academic Writing Centre 等) と共に参加
- 図書館の分担： 各1クラス授業2回
- 図書目録検索の紹介／データベースでの学術雑誌論文の検索／Web検索結果の評化
- 共通のパワーポイント制作

利点

- 図書館以外のキャンパス内の学生援助部門との協力と調整
- 司書間の協力, 計画、分担、反省

欠点

- 臨時講師19人との計画する難しさ
- WebCT でのテスト（15項目）
 - 講義内容の記憶テストにとどまっている

学科、学部カリキュラム優先型

Human Ecology学部

繊維化学学科

- 学部長と学科の教員に情報リトラシー教育内容の導入提案
 - ・ 情報リトラシーコーディネータ、ビジネス分野の司書、繊維学の司書、3名
- 情報リトラシーの概要と研究資料検索の環境
- 学科のカリキュラムの習得の援助を重視
- 司書の学科カリキュラムの理解
- 司書と教員との協力
 - ・ 2005年春より定期的計画予定

学部、学科単位での計画と運営

- 教員との協力の共通項
 - 学生の学習活動援助の強化
- 学部、学科の大きさ
 - 学部、学科内の統一性
 - 違った戦略の展開
- 長期的計画と戦略研究

情報リトラーシー教育の本質

学生の学習環境を作る上での相乗効果の探求